

大学院 文学研究科

— 修士課程案内 —

津田塾大学

文学研究科の詳細については本学公式 web サイトも合わせてご覧ください。

<https://www.tsuda.ac.jp/academics/gs-esc/index.html>



入試情報については大学院入試(2024年度)のページに6月中に掲載予定です。

<https://www.tsuda.ac.jp/admissions/gs-system.html>



I. 専門分野とプログラム

■小平キャンパス

イギリス文学

他国からさまざまな影響を受けながら、世界に先駆けて多くの分野で学問や産業を発展させてきた国、イギリスで生まれた文学テキストの分析を行い、そこに顕現する思想や社会のありようなども併せて探究していきます。

ルネサンス期から 21 世紀までの詩、演劇、小説を中心とした幅広いジャンルを研究対象に据え、新旧の文学理論について学び、テキストを緻密に読み解く力や資料を適切に収集・利用する力を養い、幅広い視点からイギリス文学に関する研究と考察を行います。研究テーマとしては、時代の文化的・社会的状況と作品あるいは作家との影響関係、自律的な言語芸術体系の中でのテキストの位置づけ、翻訳文学を含む英語文学の特質、テキストにおけるジェンダー・ポリティクスなど、さまざまなものが設定可能です。近年注目されている潮流からの検証なども行いつつ、多様な思考へと射程を拡げていきます。

アメリカ文学

多様な人種や文化が織りなすアメリカ文学のテキストを、批評理論や人種・ジェンダー・エスニシティなどの文化研究等、様々なアプローチを通して深く考察し、そこにアメリカ文学の特徴ばかりでなく、アメリカ社会や歴史や文化の諸相を読み解いていきます。

近年のアメリカ文学研究においては、植民地時代から現代にいたるまでの様々な文学作品に加え、日記や雑誌、音楽や映画といった幅広い文化的言説も研究対象となっています。個々の作家の作品を精確に読み込むと同時に、その作品を成立させている時代の思想的潮流や文化的コンテクストを併せて検証し分析することで、より深い文学研究へとつなげます。

講義科目では、白人作家やアフリカン・アメリカン作家、ネイティブ・アメリカン作家、アジア系作家、女性作家など、変化に富んだ内容が扱われます。様々なアプローチがありますが、年度により、院生の関心に沿った幅広い授業が展開されています。

イギリス文化

イギリスという国は世界に先駆けて産業革命と都市化を経験し、かつては「近代文明」の象徴とされました。そして、グローバル化の流れのなかで「日の沈まぬ帝国」としての偉容を背景にして、英語をはじめとする文化や思想、社会制度を世界に送り出してきました。現在もなお、多民族・多文化社会として多様な要素を取り込みながら変化し続けています。

こうしたイギリスをめぐる地域研究のテーマは非常に幅広く、地理的には連合王国だけでなく旧植民地の国々（アイルランドやインドなど）をも対象に含めることが可能です。それらの国・地域に生起する社会や文化の複雑な問題について、資料の収集と分析をおこない、消費やデザイン、ナショナリズム、ジェンダー、都市、環境、公共性といった論点をふまえて考察をおこないます。

アメリカ文化

アメリカ合衆国の歴史・社会・思想・文化に幅広く触れながらアメリカ合衆国を総合的に理解する地域研究の枠組みの中で、自分自身のテーマを持って、研究を深めることをめざしています。

研究方法としては、歴史研究を主軸としながら、学際的なアプローチも積極的に取り入れています。近年のアメリカ研究においては、アメリカ社会のダイナミズムを人種・階級・ジェンダーなど多文化の視点から考察することが重視される一方で、アメリカ合衆国の国境を越えるトランスナショナルな人の移動や文化の交流にも関心が寄せられています。

アメリカは世界の国々や大衆文化に大きな影響力を及ぼしていますが、とりわけ日本は、歴史的にも、経済的にも、アメリカと深い関係を持っています。アメリカを研究することは、21世紀の国際社会や日本について考えることにもつながるでしょう。

英語学

人間の言語能力の本質を明らかにしようとする研究分野です。英語をはじめとして、様々な自然言語の本質やしぐみについて深く研究します。大学院での専門分野としては、音韻論・統語論・意味論・言語獲得・文処理研究についてとくに詳しく学ぶことができます。これらの分野の研究では、人間の言語活動を詳細に観察し、仮説をたて、修正を加えながら、言語知識とは何かを明らかにします。内省データを基にした理論研究と、様々な行動実験を行う実験研究を融合させ、人間の言語能力を多角的に探究していきます。複数言語を対照させて分析するのにも有効なアプローチで、この場合は日本語の分析も非常に大きな役割を果たしています。

異文化コミュニケーション学 / Intercultural Communication Studies

The field of Intercultural Communication Studies (異文化コミュニケーション学) comprises two key areas of study in contemporary intercultural communication research: *Intercultural New Media Communication*, which focuses on how new media and technologies transform communication across cultures; and *Critical Intercultural Communication*, which focuses on the impact of power and larger societal (historical, political, and sociocultural) forces on communication. On top of these two areas, students are encouraged to take other advanced classes in the Graduate Programme in English and Culture Studies. This interdisciplinary approach enables students to develop versatile intercultural competence and communication skills for the increasingly complex intercultural communication in today's globalised world.

英語教育

いまや地球上では十数億の人びとが英語を用いてコミュニケーションを行っています。そのうちの半数以上が英語を第二言語として身につけた人々です。グローバル化の進む現代社会においては、母語以外の言語も習得し、使いこなすことは珍しくありません。

このような中で、第二言語を習得することはどのようなことなのかを研究します。認知的要因や情動的要因、社会文化的要因、あるいは母語と対象言語の関係など、多様な視点から学習プロセスを量的・質的に究明していきます。また、内容重視アプローチやドラマ手法あるいはコーパスを取り入れた教授法研究、四技能に関わる理論的・実践的研究、子どもから大人までの言語習得過程のメカニズム研究などを通して、第二言語習得と人間の関係を幅広く探求していきます。

現職教員研修プログラム

公立学校勤務の教員のための修学休業制度あるいはそれに準ずる制度を利用して修士号取得をめざす方のためのプログラムです。在籍中は英語教育の授業を中心として、小平キャンパスおよび千駄ヶ谷キャンパスで提供される多彩な授業を履修することができます。

■千駄ヶ谷キャンパス(裏面参照)

英語教育実践研究

II. 奨励金等の種類(給付型)

その他、貸与型の奨学金もあります。

| | |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学院学生学会発表奨励金 | 国内での学会(日本学術会議に登録された学会等)で発表を行う者に年1回、交通費・宿泊費を支給する制度があります。 |
| 大学院生研究活動支援費 | 年度内に実施され終了する研究活動(「学会発表奨励金」の対象外の学会や2回目以降の発表・参加、実験・調査等)について補助を支給する制度があります。 |
| 大学院海外学術研究奨励金 | 海外で学会出席・学術調査をする者に最大15万円程度を支給する制度があります。 |
| 海外留学(派遣・受入)奨学金 | 海外の大学に1学年間またはそれ以上留学するものに、最大50万円を限度に支給する制度があります。(応募締切日までに入学許可書が必要となります) |
| 文学研究科鷲見八重子出版奨励金 | 後期博士課程終了者のうち、学位論文、もしくはそれに相当する論文を出版する者を支援する制度があります。毎年度予算100万円を上限とし、該当者には論文出版のために係る費用を支給します。 |
| 文学研究科鷲見八重子海外研究支援奨学金 | 修士課程または後期博士課程に在籍する大学院生が、学会発表、資料収集、実地調査など海外渡航をともなう研究活動を行う際に、渡航費、学会参加費、滞在費などを援助することを目的とし、毎年度1名につき、50万円までを2名以内に支給します。 |

III. 修了生の進路(2007年度-2022年度)

| 修士課程修了者 | | 147名 | 後期博士課程終了者 | 33名 |
|---------------------|-------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 津田塾大学大学院文学研究科後期博士課程 | | 17 | 大学教員(専任/助教/非常勤) ・専門学校 | |
| 他大学大学院後期博士課程 | | 3 | 25 | |
| 中学・高等学校教員 | | 61 | 津田塾大学(助) 津田塾大学(非) 桜美林大学(専) 獨協医科大学(専) 麗澤大学(専) 青森公立大学(専) 宮崎公立大学(専) 法政大学(専) ものづくり大学(非) 東京農業大学(非) 文教大学(非) 東京造形大学(非) 千葉商科大学(非) 東京未来大学(非) 神奈川工科大学(非) 筑波大学外国語センター 日本外国語専門学校 目白大学 福岡大学共通教育センター | |
| 和洋国府台女子中学・高等学校 | 埼玉県立三郷技術工業高等学校 | | | |
| 東京純心女子中学・高等学校 | 埼玉県立中学・高等学校 | | | |
| 共立女子学園中学・高等学校 | さいたま市立浦和南高等学校 | | | |
| 桐蔭学園中等教育・高等学校 | 東京都立芝商業高等学校 | | | |
| 桐朋中学・高等学校 | 東京都立中学・高等学校 | | | |
| 早稲田実業学校中・高等部 | 千葉県高等学校 | | | |
| 東京家政大学附属中学・高等学校 | 千葉県立船橋東高等学校 | | | |
| 跡見学園 | 神奈川県立中学・高等学校 | | | |
| 拓殖大学第一高等学校 | 横浜市立中学・高等学校 | | | |
| 大宮開成中学・高等学校 | 相模原市中学校 | | | |
| NHK学園高等学校 | 愛知県立中学・高等学校 | | | |
| 白百合学園中学・高等学校 | 富山県立中学・高等学校 | | | |
| 白梅学園高等学校 | 島根県高等学校 | | | |
| 豊島岡女子学園中学・高等学校 | 成城学園中学校 | | | |
| 星野学園中学・高等学校 | 東京外国語専門学校 | | | |
| 日本大学鶴ヶ丘高等学校 | 日本大学習志野高等学校 | | | |
| 武蔵野女子学院中学・高等学校 | 茨城県教育委員会 | | | |
| 国際基督教大学高等学校 | 十文字中学・高等学校 | | | |
| 国本女子中学・高等学校 | 目白研心中学・高等学校 | | | |
| 瓊浦高等学校 | 光塩女子学院中等・高等科 | | | |
| 千葉経済大学附属高等学校 | 安田女子中学・高等学校 | | | |
| 土浦日本大学高等学校情報学館 | 東京立正中学・高等学校 | | | |
| 成蹊中学・高等学校 | 江戸川女子中学・高等学校 | | | |
| 青森県立学校 | 三輪田学園中学・高等学校 | | | |
| | 東京農業大学第三高等学校 | | | |
| 一般企業・公務員 | | 42 | | |
| TMI総合法律事務所 | カルチャープロ | | | |
| 大和三光製作所 | 虎門中央法律事務所 | | | |
| NEC情報システムズ | エミル出版 | | | |
| 日産ディーゼル | 半導体エネルギー研究所 | | | |
| 日清製粉 | 好宮特許事務所 | | | |
| 東西総合法律事務所 | 日本プレースメントセンター | | | |
| 三恒 | さくらケーシーエス | | | |
| NHKアート | アクセンチュア | | | |
| 日本出版貿易 | アンダーソン・毛利・友常法律事務所 | | | |
| メフォス | 山陽新聞社 | | | |
| グロップ | ラッシュジャパン | | | |
| ラックスホールディングス | 愛知県職員 | | | |
| ネスレ日本 | 大妻女子大学 | | | |
| ケイ・システム | ラボ教育センター | | | |
| 日本サードパーティ | 国際協力推進協会 | | | |
| ビジョンブリッジ | 半導体エネルギー研究所 | | | |
| グレイステクノロジー | 小平市 | | | |
| ジアス | 日比谷コンピュータシステム | | | |
| タマス | 日本知財標準事務所 | | | |
| ロッテ | 日本オラクル | | | |
| カシオ計算機 | 聖心女子大学 | | | |
| | エムシースクエア | | | |
| その他 | | 24 | その他 | 8 |

文学研究科修士課程 英語教育実践研究(千駄ヶ谷キャンパス)

プログラム紹介

教育研究者としての視点を持つ「学び続ける先生」になるために。

本プログラムは、英語の授業を担当している先生方や将来英語教師になることをキャリアとして考えている方などが、英語指導の実践力と研究力を身につけることをねらいとした、新しい修士課程です。仕事を続けながら、夜間、週末、夏期・冬期休暇を利用して必要単位を修得できます。通常の毎週の授業で基本となる必須の勉強ができ、また夏と冬の集中講義で、その時に最も注目されるような研究テーマや実践指導法など扱います。英語教育の質をさらに高めていける、実力ある英語教員が求められている現在、教師自身が英語を使い、教授法の研究を続けていくことが必要となります。本プログラムでは半数程度の授業が英語で行われ、ディスカッションを中心とした参加型授業を実施しています。英語教育理論を身につけ、客観的に授業を見つめ直し、自分で授業に必要な何かを見出す、さらに改善し、また見直す、そのような自律的発展ができる英語教員育成をめざします。教師でありながら教育研究者であること、それによって、コミュニケーションのための英語が指導でき、さらに時代の要請や学習者のニーズに応える柔軟な英語指導ができるようになります。生涯英語を使いこなせる学習者を育てていけるような、研究に基づく実践力を備えた英語教師を養成します。通学が困難な方などのため、2019年度よりインターネット通学制度も始まりました。

夏期集中講座・冬期集中講座

夏期集中講座

毎年8月に外国語教育や関連分野で国際的に活躍している研究者を海外から招き、5日間の集中講義を行います。その分野での最先端の研究に触れ、ワークショップ、ディスカッションなどを通して実践に役立てる方法を学んでいきます。隔年で、語彙指導研究者と語用論研究者または社会言語学者をお呼びしてきました。これまでに語彙指導では Paul Nation 氏、Stuart Webb 氏、また、語用論研究では Noël Houck 氏、Virginia LoCastro 氏、社会言語学では Janet Holmes 氏、第二言語語彙習得研究では Charles Browne 氏などをお呼びしています。2023年度は応用言語学研究者の Stuart John Mclean 氏が担当する予定です。

冬期集中講座

毎年12月に4人の講師をお招きし、多様な授業実践のワークショップを4日間オムニバス形式で行い、さまざまな視点から授業研究を行います。「自己表現の指導」から「ティームティーチング」に至るまで、いろいろなワークショップを体験し、ディスカッションを行います。中学・高校・大学の教員で、その授業方法が注目を集めている先生方や、英語教員セミナーの指導者に講義をお願いしています。

開講科目例

・必修科目

| 科目名 | 内容 |
|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Introduction to Second Language Acquisition | 「第二言語習得研究とは何か」を学ぶ、本コースの基本となる講義です。第二言語習得の歴史や現状を学び、その中で先生方一人ひとりがどのような位置を担っているのか考察することにより、時代の変化に対応できる英語教師となることを目標とします。 |
| Methods and Practices in Second Language Acquisition | 第二言語習得研究に基づいた、さまざまな教授法とその実践方法、クラス運営方法などを学びます。日本語の使用量は、添削の仕方は……。具体的に学ぶことによって、状況に応じた方法を使い分け、学習者全員の意欲と満足を引き出す指導をめざします。 |
| Developing Listening Skills | ネイティブスピーカーによるOracy(話し言葉に関すること)の実践指導を行い、聞く指導・話す指導に関する最新の情報を学びます。Developing Listening Skills は、「ナチュラルスピードで聞く」ことを目標とした指導を行うために、基本を再確認します。また、内容理解につながる聞き方とは何かを考えます。Developing Speaking Skills は、話者同士のより良いコミュニケーションを目的とし、発音に慣れつつ、談話のスタイルや社会的要因なども考慮した、さまざまな話し方を学びます。 |
| Developing Speaking Skills | |
| Developing Reading Skills | ネイティブスピーカーによるLiteracy(書き言葉に関すること)の実践指導を行い、読む指導・書く指導に関する最新の情報を学びます。Developing Reading Skills は、読むこととは何か、精読と多読、背景知識、読み手の理解や語彙獲得、読解ストラテジーなどを学び、読解力と知識両方の向上をはかります。Developing Writing Skills は、パラグラフ・ライティングなどを学ぶほか、近年英語教育で注目されているプロセス・ライティングについても研究し、思考と言語の関わりについて考察します。 |
| Developing Writing Skills | |
| アクションリサーチ概論 | 研究活動の基本を学びます。前期はリサーチに関する基礎的な知識を身につけ、後期はアクションリサーチや教材開発研究で扱うテーマについて先行研究の調査を行います。研究のプロポーザルを書き、2年次の研究活動につなげます。 |
| アクションリサーチ演習 | 各指導教員の小グループでの指導により、研究に必要な知識や能力を身につけます。2年次には英語でアクションリサーチ報告論文や教材開発研究論文を書き上げ、後期には論文を提出します。 |
| Focus on Learners: Affective, Cognitive and Other Learner Factors | 学習者の個性要因にどのように注目するかを研究します。どうしたら学習者の意欲を引き出せるか、認知のスタイル、学習態度などについて考察します。また、日本の英語教育では従来あまり注目されていなかった情意的側面の工夫についても考えます。 |
| Topics in Language Teaching | イギリス文学、イギリス文化、アメリカ文学、アメリカ文化、英語学、異文化コミュニケーション学、日本語教育の専門分野の教員が、オムニバスで英語教育の背景知識となる各分野について講義を行います。 |

・選択科目

| 科目名 | 内容 |
|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Bilingual and Multicultural Education | 多言語、多文化化の進む現代では、日常2つ以上の言語を使って暮らす人口が増えています。初等英語教育の視点も含めて、一人あるいは社会全体で複数言語文化とどう向き合うかについて学びます。 |
| 評価法 | 教育評価に関わる基本的な考え方を学び、評価の妥当性とは何かを考察します。評価の理論的視点だけでなく、評価の実際や、データ処理、統計についても学びます。 |
| Cross-cultural Communication | 異文化教育の視点から、言語と文化の関係を学びます。多様な文化的価値を認めることや、異文化との接点と言語教育の関連性、文化を超えて共存する人を教育することなどについて考察します。 |
| 言語研究 | 言語の仕組みや成り立ちについて考察します。音声や音韻の研究、言語の構造研究、語法研究、ディスコース研究、談話分析、テキスト分析などについて学びます。 |
| ICT 英語教材開発法 | ICTを活用した教材開発および教授法の研究を行います。ICTを用いた学習者と授業者、および学習者同士の相互コミュニケーションの方法や、通常の英語指導と関連させたICT活用法などを学びます。 |